

中野雅博教授のご定年にあたって

本学部の中野雅博教授が、2009年度末をもってご定年を迎えられます。教授は、1944年12月のお生まれで、1969年に京都大学文学部史学科地理学専攻をご卒業になられ、1971年に同大学院文学研究科地理学専攻修士課程を修了のち、金沢大学教育学部、大分大学教育学部を経て、1981年4月より立命館大学文学部地理学科助教授に着任されました。その後、1987年教授昇任を経て、1988年4月からは新設のわが国際関係学部に移籍されました。国際関係学部ならびに研究科では、北アメリカ研究、多文化社会論、地域調査法、専門演習などをご担当されましたが、2004年4月から2008年4月にかけては、立命館アジア太平洋大学教授ならびに教学部長、副学長としてご活躍され、日本初の本格的な国際大学の教学の発展に尽くしてこられました。わたくしたち国際関係学部教職員一同は、立命館学園とわが国際関係学部に対する中野教授のこれまでのご貢献に対して、篤く御礼を申し上げるとともに、今後ますますのご健康と、ご研究の発展を願うものです。

さて、去る2010年1月19日には、先生の退職記念講義が開催されました。わたくしも末席をけがさせていただきましたが、先生を慕う学部学生・院生とともに、何人もの教員・職員、それから文学部の同僚の皆さん、さらには一般の方まで参加しておられる様子には、たいへん感銘を受けました。それぞれの方が、次代に何かを残していかれようとする先生の記念講義に熱心に耳を傾け、メモを取りながらうなずいておられました。29年の長きにわたって立命館大学の教員として過ごしてこられた先生にとりまして、まさに至福の時であろうと推察いたしました。とくにそのご講義の後半部分は、「大学で教えること」というテーマに充てられ、先生が1964年にはじめて京都大学教養学部で教育原理を受講された際に担当教授がおっしゃった「教育とは愛である。それも無償の愛である。」というお言葉を敷衍されながら、ご自身の学生諸君に対する深い愛情を披歴されました。しかもその教育実践を通ずる先生の愛情は、立命館アジア太平洋大学において広く世界の若者たちに向けられたものでありました。このことは、教授の深い学識に裏打ちされた人格の高潔さを何よりも明瞭に示すものでありましょう。

この4月より、教授会・研究科委員会におきまして、中野先生とお席をともにできないことは、われわれの何よりの悲しみとするところであります。立命館アジア太平洋大学で培ってこられた斬新な国際感覚に基づいたご提言やご警告に耳を傾けることができないことは、学部にとりまして大いなる損失であります。しかしながら、先生のお残しになられたさまざまの足

立命館国際研究 22-3, March 2010

跡を今更のようにたどりながら、今後一層学部・大学院の発展に邁進させていただくことをお約束いたしまして、先生の「第二の学究人生」へのはなむけの言葉とさせていただきます。どうかご健康に留意され、今後とも世界の教育と研究に貢献されることをお祈りいたします。ありがとうございました。

2010年3月

立命館大学国際関係学部長 板 木 雅 彦